

# 第3回 2016年 キーパー技術コンテスト

## 全日本チャンピオン決定戦レポート

今年3回目を迎えたキーパー技術コンテスト。全国で54回の予選会、14回の地区チャンピオン戦を勝ち抜いた45名が、Keeper技術本社のある、愛知県大府市のトレーニングセンターに集結。全日本チャンピオン決定戦の舞台に立った。



4月12日(火)  
準決勝

緊張せず、普段通りの施工ができるか…  
お客様の笑顔を思い浮かべ、  
ひたすら車に向き合う!

第3回キーパー技術コンテスト全日本チャンピオン戦準決勝当日。小春日和が続いていたが、この日は選手たちの気持ちを引き締めるような冷たい風が吹いていた。今年は6名の女性が全日本チャンピオン戦に残り、女性の力がキーパーコーティングの新たな可能性を切り開くことを予感する。戦いは3班各15人で行われる。施工する車は、シルバーのプリウス。準決勝が始まると、和やかなムードだった会場が緊張感で張り詰める。

準決勝は競技得点にプラスして時間順位加点が加算される。1番施工が早かった選手にはプラス2.5点、2番目以降は-0.1点刻みで加算されていく。何台もの様々な種類の車を施工し、磨かれた技術を発揮するには「いかに緊張せず、普段通りの施工ができるか」が勝負どころだ。ただお客様の笑顔を思い浮かべ、プレッシャーに打ち勝つ。選手の集中力と気合いが伝わってくる。

決勝進出権を獲得したのは11名。1位から11位までのポイント差はわずか4.3ポイント。決勝は、0.1ポイントを争う接戦となることは間違いない。



入賞者には、優勝旗やトロフィーの他、賞品として快洗ROIIや快洗ROプラス、販促品購入金券等が贈られる。



試合中は、見学自由。施工技術が高い選手には、人が集まり、動画を撮る。採点者に加えてギャラリーからも見られながらの作業になる。技術だけでなく精神力も必要だ。

4月13日(水)  
決勝

会場に満ちる、静かな闘志…。  
プロフェッショナルたちの妥協を許さない技術に息を飲む!



決勝は1人の選手に対して、3人の採点者がつく。3人のつけた点数の平均が競技得点となる。採点者もキーパーコーティングのプロフェッショナルであり、採点歴が長いスタッフだ。その目は厳しく、少しの拭き残しも見逃さない。選手と同様、真剣勝負だ。

決勝当日は、春の嵐。今日の戦いを表しているかのようだ。準決勝までは、車半分のクリスタルキーパー施工での戦いだったが、決勝は1人1台の施工となる。車はアクアのガンメタ。決勝直前、選手たちはそれぞれイメージトレーニングやストレッチを行う。会場の雰囲気は昨日と違う。準決勝では緊張感で満ちていたが、決勝では静かな闘志が会場を覆っている。「手を少なく、早く、そして拭き残しなく施工できるか」が一つのポイントだ。しかしスピード、技術だけではなく、車をキレイにするセンス、精神力など総合的な能力を発揮した選手がチャンピオンの座を獲得する。

なぜ、選手たちはここまで真摯に技術を究めるのか。個人的な名譽はもちろんある。しかしそれを唯一の目的にしている選手はいないだろう。自分が技術を高めることで、お客様にもっと喜んでほしい、スタッフと一緒に喜びたい。そんなひたむきな想いを1台のコーティング施工にぶつける。

結果は、前回コンテストで最も早かった施工時間52分から9分早い43分というタイムを打ち出した矢部正選手がチャンピオンを獲得。拭き残しもほとんどなく、ほぼ完璧な施工だった。日々の施工の中で作り上げた矢部選手のテクニックには無駄がない。

チャンピオンを逃した選手たちも、悔しさがありながら達成感のある爽やかな笑顔を見せてくれた。コンテストには負けたかもしれないけれど、また一つ成長したという自信にあふれ、次の目標に向かっていく姿にプロフェッショナルの精神を感じた。



わずかな拭き残しが、勝負を決める…11名の大接戦!!



全日本チャンピオン決定戦の熱い戦いと、  
選手たちのハイレベルな技術を動画でご覧ください!

Youtubeで キーパー技術コンテスト 2016 検索

